

JFS-B と JFS-B PLUS の差分について

アラタ・クオリティーコンサルティング

安田 新



なぜ、JFS-B PLUS なのか

【被認証側のニーズと期待】

- HACCPへの取り組みを証明したい
- 海外に向けて、製品の安全性をアピールしたい
- 取引先からの求めに対応したい
- 更に上位のFSMS（FSSC/ISO22000,JFS-C等）へのステップアップの足掛かりが欲しい。



被認証（監査受審）側の変更

■ 追加要求事項の発生

- ・ **これから確認します。**

- ・ JFSMのHPに対比表が掲載：

<https://www.jfsm.or.jp/scheme/documents/index.php>

■ 監査工数が増える

JFS-Bの工数に0.25人日（2時間程度）追加

現場に追加するか、文書確認に追加するか、は監査会社と監査される組織で決める。 監査費用が若干増加（？）

■ JFS-B自体は何の変更もない

必要に応じてステップ・アップする。 **必ずしもステップ・アップする必要はない。**



要求事項箇条				チェック
Ver.3.0	Plus	Ver.3.0	PLUS	
FSM 2	FSM 2	組織体制の明確化と周知の証拠	食品安全方針、コミットメントの証拠 『食品安全文化の要素』を含めることが追加	必須ではないが・・・ ※別途解説します
FSM 4	FSM 4	法令順守の手順の構築	法令順守の手順の構築と、 <u>法令順守手順の実施記録</u>	文書化が必須となった
FSM 6	FSM 6	食品安全方針	食品安全方針	変更なし
FSM 7	FSM 7	食品防御 リスクを抽出し評価し対応する	食品防御 リスクを抽出し評価し対応する ・アクセス管理 ・安全でない可能性のあるものへの対応	掘り下げて追記
—	FSM 8	—	食品偽装低減計画を作成	Plusにて新設の要求事項 ※別途解説
FSM 9	FSM 9	文書・記録の管理手順	文書・記録の管理手順	文書化が必須となった
FSM 11	FSM 11	手順	手順	変更なし



FSM 8

(文書化必須)

項目	要求事項
<p data-bbox="129 427 584 483">食品偽装防止対策</p> <p data-bbox="129 628 1032 887">偽装とは（定義）： コスト削減や優良誤認を目的とした改ざんなど、主に経済的な理由により行われる意図的な行為</p> <p data-bbox="129 967 1032 1158">例) 希釈、置き換え、隠匿、不正な表示、認可されていない手段による機能強化、偽造、など。</p>	<p data-bbox="1084 427 2047 818">組織は、潜在的、及び顕在的な製品に対する記録や表示の改ざん及び意図的な希釈等の偽装に関する脆弱性を特定し、食品偽装の低減策に優先順位をつけるための評価手順を定め、実施し、維持しなければならない。</p> <p data-bbox="1084 831 2047 1158">組織は、特定された食品偽装の脆弱性による食品安全リスクの低減に向けて組織が実施する対策を明記した食品偽装低減計画を文書化し、実施しなければならない。</p> <p data-bbox="1084 1171 2092 1362">この計画は GMP を含み、食品安全マネジメントシステムに組み込まなければならない。</p>



FSM 8

(文書化必須)

【食品偽装の脆弱性評価（脆弱性評価）】

食品偽装が発生するリスクを食品安全に及ぼす影響度から優先順位をつけて、防止軽減策を構築する

<例>

- 1) 取り扱う食品に関連する原材料とその仕様を明確にする。
- 2) 偽装が発生させかねない事象とは何か
(どのような偽装が起こり得るのか) を推定する。
- 3) 生じる可能性のある偽装についてリスクの大きさを推計する。

